

## 年頭のあいさつ 「大事な1年、多様性を認め合う組織に」

令和4年(2022年)1月4日 新年全体朝礼にて 施設長 宮下正弘

皆さん、新年明けましておめでとうございます。

クリスマス寒波、年末年始寒波と連続の襲来で、雪除けなどゆっくり休めなかったかとも思いますが、この間山盛苑を支えてくださった職員の皆様に、心からご苦労様でしたと申し上げたいと思います。また、1月1日には、入所者の皆さんに、少しでも家にいるような正月気分を味わってほしいと、3年前から「新春お楽しみ会」をやっていますが、ハモニカに合わせて大きな声で歌ってくれたり、佐々木看護介護部長と水沼介護課長の獅子舞に囃んでもらって手を合わせたり、福笑いで大笑いをしたり、楽しい時間が持てたと思います。ありがとうございました。

さて、この1年取り組むべき最も大きなことは、築23年を経て老朽化が目立ってきた山盛苑の将来の方向の確定であります。昨年ひょんなことから、旭南への移転構想が唐突に、表に出て一大騒動を引き起こしましたが、その後慎重にかつ多面的に検討した結果、敷地面積が十分でなく、駐車場の確保も出来ないことなどから、最終的にこの地ですね、現在地で、郊外型の老健としての道を進むこととなりました。新築と違って真っ更なところからの検討にはなりません、老健のあるべき姿を描きながら基本計画を創り上げてゆかなければなりません。この1年はそういう意味で将来を決める大切な年になります。皆さんの現場からのアイデア、夢を大いに出してほしいと願っています。

もう1点お話ししたいと思います。

昨日、3日ですね、さきがけの社会面トップに「寛容性、全国最低レベル」という大きな

見出しが眼に飛び込んできました。秋田県の現在のもっとも大きな課題は「人口減」ですが、その社会増減には、仕事や所得では説明できない「ファクターX」があり、それは地域の「寛容性」であろうということなのです。指標化のために設けた6つのジャンルの評価はいずれも全国最低レベル(男性46位、女性47位)、総合46位で、これは衝撃的でした。寛容の逆は「不寛容」、とげとげしい社会・地域ということになります。そう言えば結婚生活、家庭と言い換えてもいいかもしれませんが、持続させるコツは寛容(Tolerance)と忍耐(Patience)という英語の格言がありましたね< **Tolerance and patience are perhaps the two most needed qualities to maintain a happy marriage**>。これは組織においても同じことがいえると思います。自由に意見を言える雰囲気、変化を受け入れる風土、最近の言葉で言えば Diversity(多様性)を認めるあうことが、組織の発展につながるのです。そんな職場を目指して、この1年、皆さんと共に進んでいきたいと思っています。

年末28日に日赤病院から入所したNさんが丁度開設からの入所通し番号で1000番となりました。23年と6か月かけての達成です。沢山の方に利用いただいたことを誇りとし、今年はい切れの良い1001番からスタートしてまいりましょう。

本年もよろしくお願いいたします。